

# 千原台高の4人

## 熊本地震被災地区の 活性化に奮闘し卒業

熊本地震で被災した熊本市中央区の新町、古町地区の魅力を発信していた千原台高校(同市西区)の生徒4人が1日、卒業式を迎えた。被災で地区の町屋は地震前の約6割に減ったが、4人は町屋をゲストハウスに改装したオーナーを取材するなど地区の活性化に奮闘し、1人は大学進学後も地区の魅力を発信するつもりだ。

【城島勇人】

### 中央区新町、古町地区

生徒は同高情報科3年の吉川史将さん(18)、増本衛さん(17)、八鞍広紀さん(18)、元田敬将さん(18)。4人は昨年5月、週2時間の授業「課題研究」で町だった地区は明治、大正時代に建てられた町屋が数多くあったが、地震で多くが被災。

高額な修理費や所有者の高齢化などから昨年末時点で158軒が解体され、地震前の6割にあたる201軒にまで減少した。

現状に心を痛めた4人は、町屋を外国人旅行者向けのゲストハウスに改装したオーナー、早川祐三さん(39)やフランス料理店主、



新町古町地区の魅力を発信し続けてきた千原台高の生徒

の左座康人さん(35)ら観光客を呼び戻そうと奮闘する姿を取材。熊本城近くの観光施設「桜の馬場城彩苑」などでは地区の認知度を調べ、観光客に来訪を呼びかけた。また町屋解体後の土地活用例を1カ所ずつ調べ、60カ所のうち9割が駐車場に転用されたことも判明。同高の生徒が仕入れた商品を校内で販売する昨年12月の「千原台マーケット」では地

### 町屋を取材、魅力をPR



駐車場に転用された町屋跡地

区の魅力を伝えるチラシ300枚を来場者に配布するなどした。4人は「風情ある町

並みだけでなく、温かくて優しい人が多いのが魅力だった」と声をそろえた。県内の大学に進学する吉川さんは「地区の祭りを手伝うボランティアに参加して今後も新町古町を盛り上げていきたい」と意気込んでいる。